

2. 岩美海岸（陸上地区）

2.1 概要

岩美海岸（陸上地区）は、西に羽尾海水浴場、東に東浜海水浴場を有し、県内有数の海水浴場として、多くの人に利用されている。

当海岸は、平成23年1月・平成24年1月の冬季風浪等により、大きな浜崖等の被害が発生した。この被災を受け、平成24年度より「岩美海岸（陸上地区）侵食対策検討委員会」が設立され、侵食対策の検討が行われた。現在は、本委員会での検討結果を受け、H27～H29の3年間で3万m³の養浜を実施しているところである。

現在は前述の養浜等を実施し、侵食対策を実施しているところではあるが、昨年度（H27.11）、冬季風浪にて、新たな侵食が発生している状況である。



図 2.1.1 昨年度の侵食状況

2.2 対策実施状況

2.2.1 施設整備状況

岩美海岸（陸上地区）における、これまでの施設整備状況を図 2.2.1 に示す。

- | | |
|--------------|---------------|
| ①東漁港防波堤 | ②潜り突堤（災害復旧） |
| ・ 整備時期 平成12年 | ・ 整備 平成17年11月 |
| | ・ 施設延長 200m、 |
| | ・ 施設天端幅 10.2m |

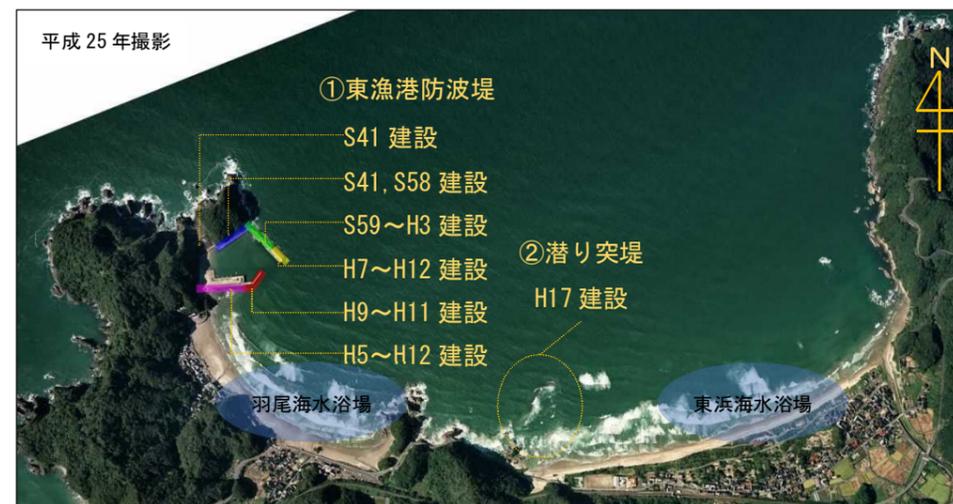


図 2.2.1 陸上海岸における施設整備状況

2.2.2 土砂投入量実績

当海岸における土砂投入実績を以下に示す。昭和59年から平成24年度までは、東漁港内の堆積土砂を岩美海岸（陸上地区）沖合へ投入していた。

平成24年に被災したことを受け、現在は陸上養浜を実施している。また、平成27年度からは、年間10,000m³の海上養浜も実施されている。

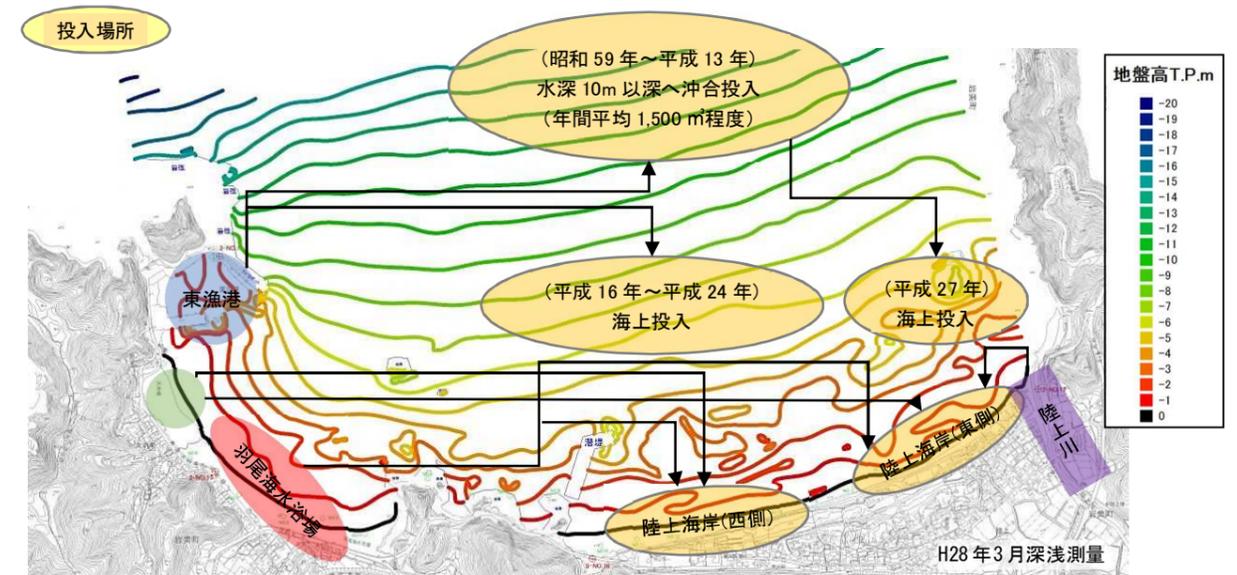
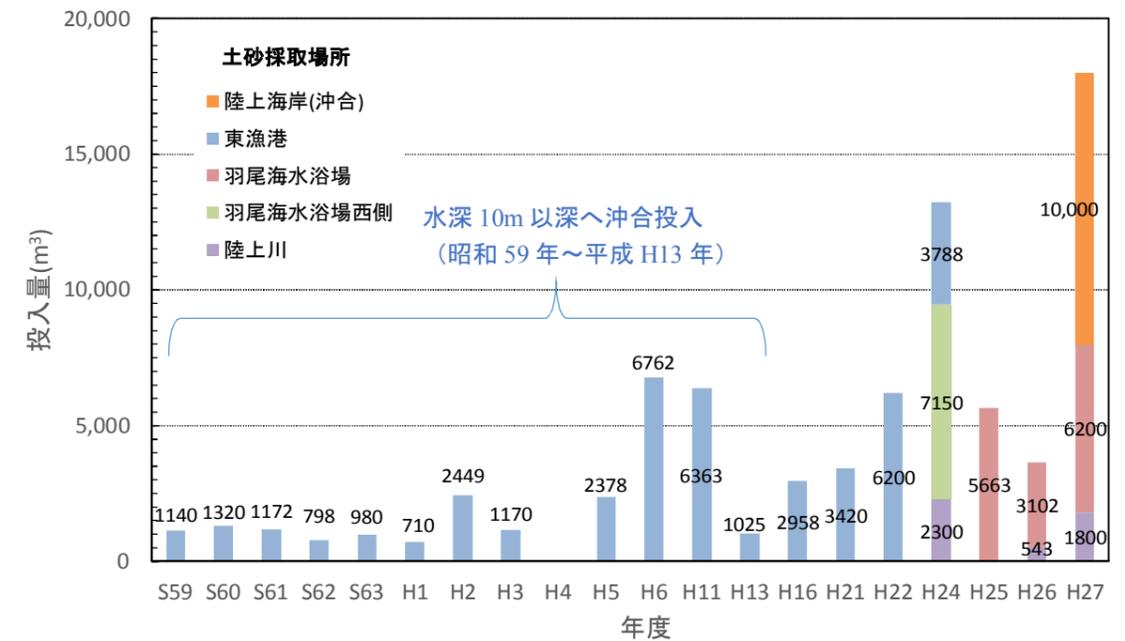


図 2.2.2 岩美海岸（陸上地区）における土砂投入状況（採取場所別）

2.3 評価分析

2.3.1 汀線変化分析

当海岸は平成 18 年度より、汀線測量が実施されている。本測量成果より、近年の汀線変化を分析する。

【近年の汀線変化傾向】

<長期変化>

- 平成 26 年度以前は、中央に位置する潜り突堤に近い範囲 (NO.10~11) は浜幅の変動が大きいものの、東側 (NO.12~22 付近) は、土砂投入により、海岸線は概ね安定している。(コメント①)
- 平成 27 年度は、東側 (NO.12~22) にて、汀線の前進・後退が激しく生じており、平成 28 年 3 月時点においても、侵食が強い傾向にある。(コメント②)
- 土砂を採取している西側海浜 (羽尾海水浴場付近) においては、特に顕著な侵食は生じていない。(コメント③)

<短期変化>

- 近年 (平成 25 年~平成 27 年) の夏季については汀線の変動量大きい。これは、台風等に起因する高波浪が、数多く発生したためと推測される。(コメント④)
- 平成 27 年度冬季に No. 22 付近で汀線が大きく後退し、局所的 (No. 20 付近) に、大きな侵食を受けている。(コメント⑤)



図 2.3.1 現地写真



図 2.3.2 岩美海岸 (陸上地区) の空中写真図

長期的分析（夏季）

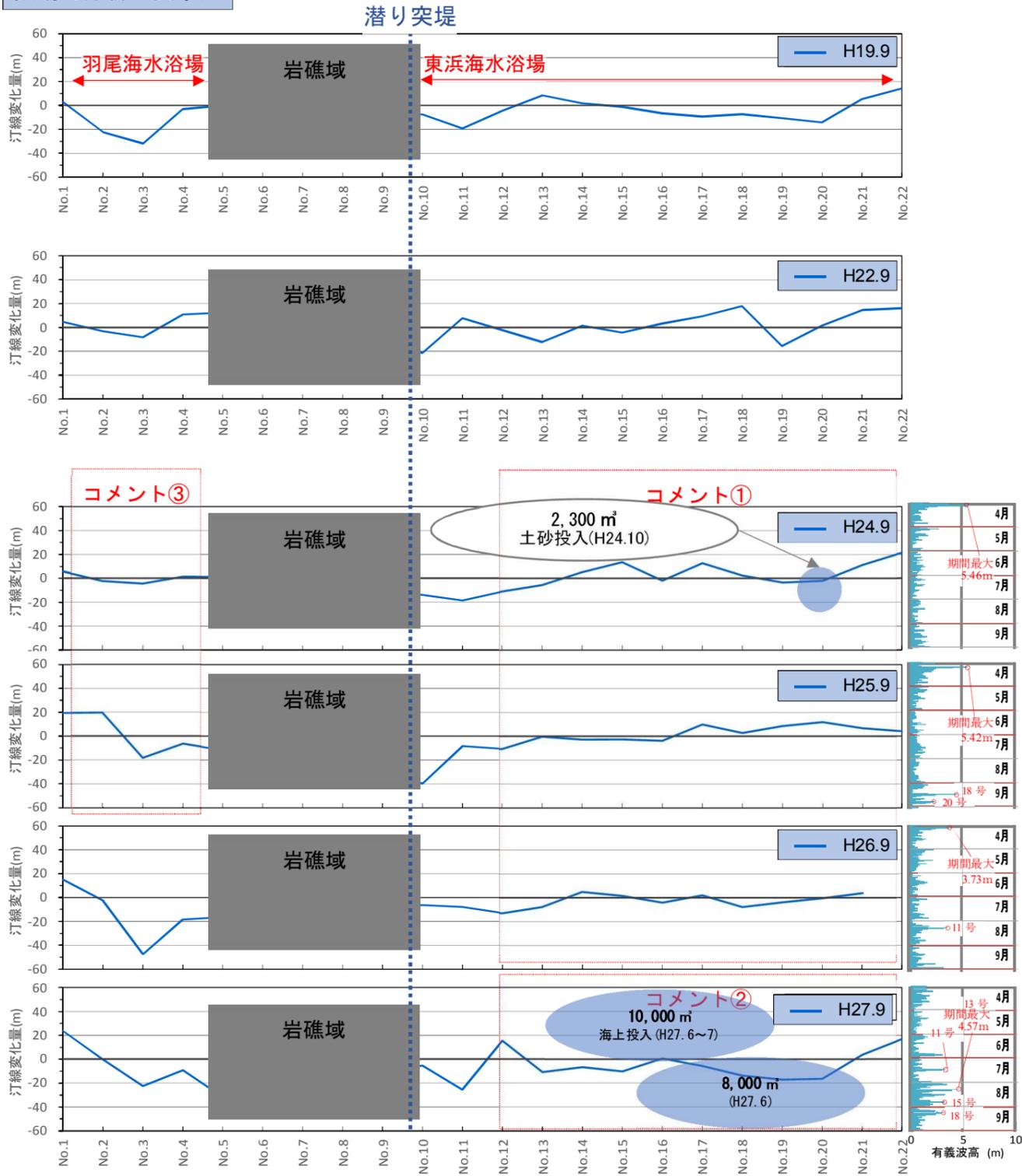


図 2.3.3 岩美海岸（陸上地区）の近年の汀線変化状況図：平成 18 年 9 月基準

長期的分析（冬季）

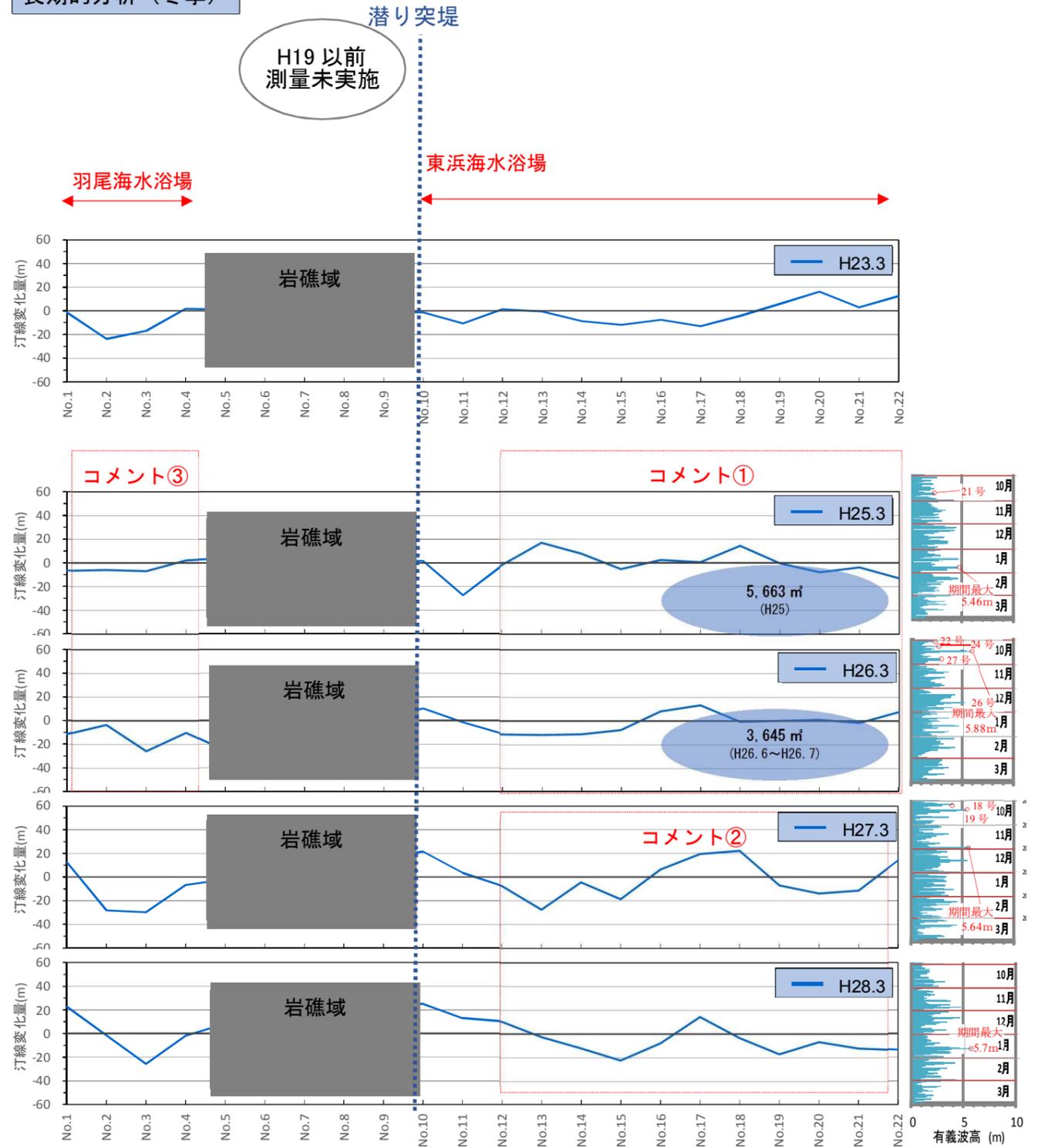


図 2.3.4 岩美海岸（陸上地区）の近年の汀線変化状況図：平成 20 年 3 月基準

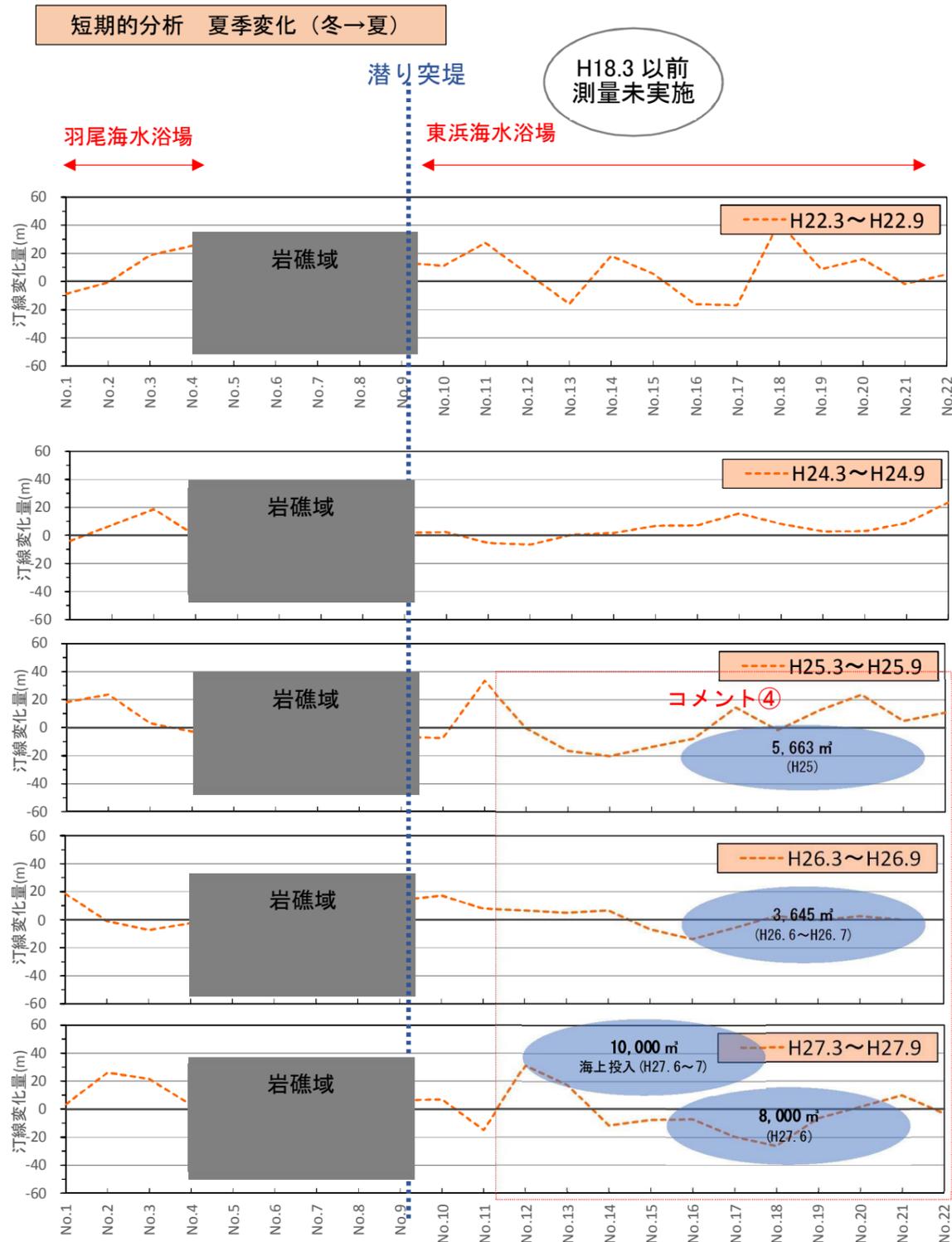


図 2.3.5 岩美海岸 (陸上地区) の近年の汀線変化状況図

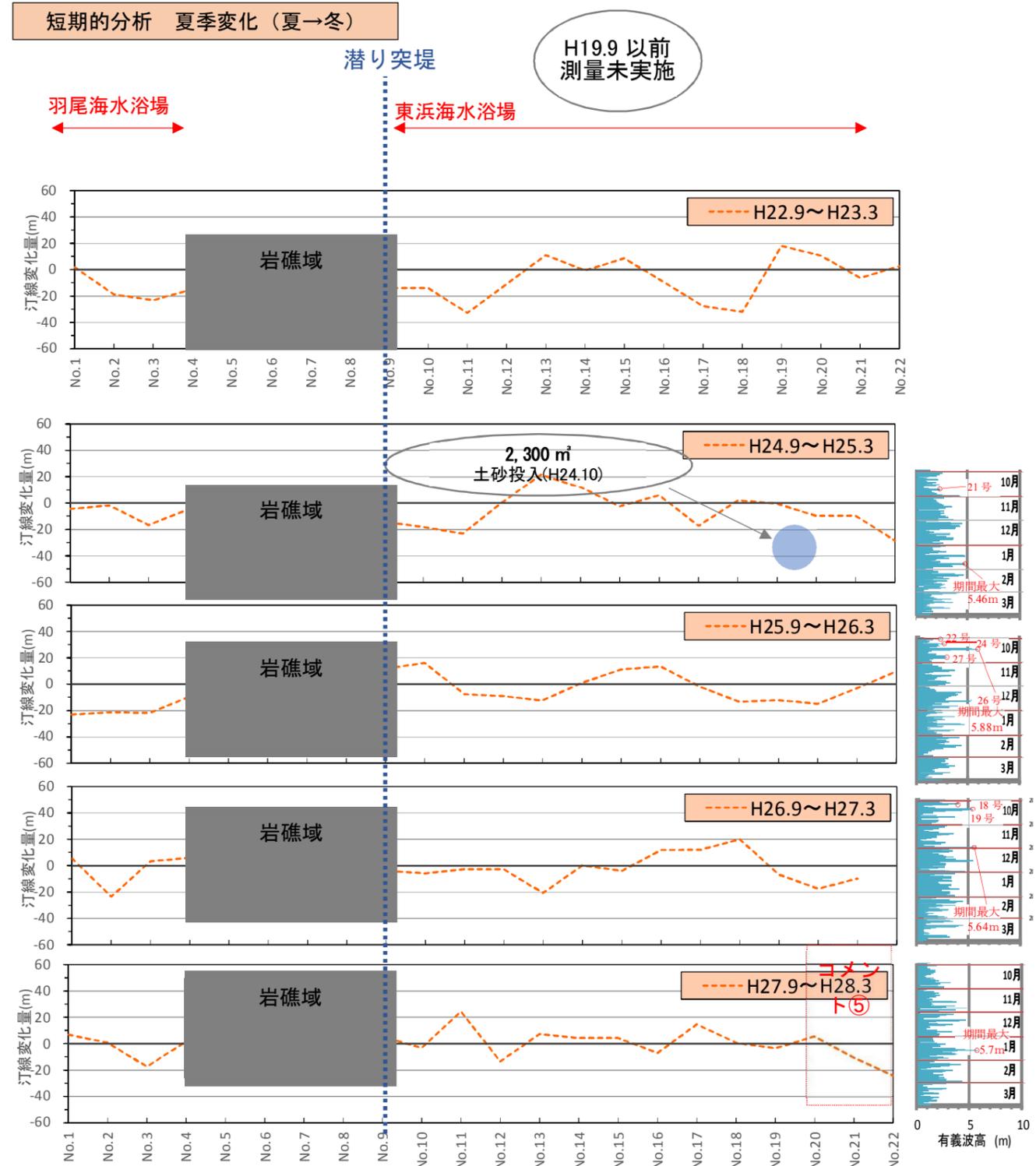


図 2.3.6 岩美海岸 (陸上地区) の近年の汀線変化状況図

2.3.2 標高差分図分析

図 2.3.7～図 2.3.10 に標高差分図を，次ページに等深線図を示す。

土砂変化量の分析結果については，以下のとおりである。

- ・ 潜り突堤より東側の海域では，岸沖方向・沿岸方向ともに土砂の移動が顕著である。
- ・ 潜り突堤より西側の海域の土砂は，東漁港から潜り突堤の間で循環し安定傾向であるが，一部、東漁港へ引き込まれている。